

Title	成熟事業におけるリーダー戦略 - 競争ダイナミックスを基点として -
Sub Title	
Author	奥津宏通(Okutsu, Hiromichi) 嶋口充輝
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第592号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0592

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

奥 津 宏 通

主査 嶋 口 充 輝

(HOYA 株式会社)

副査 片 岡 一 郎

所属ゼミナール 嶋 口 充 輝 研

和 田 充 夫

成熟事業におけるリーダー戦略 — 競争ダイナミックスを基点として —

最近、圧倒的な市場シェアを誇り、後続企業を大きく引き離してきたマーケット・リーダーの衰退が目につく。ちょっと数え上げても、ビールの麒麟，洋酒のサントリー，化粧品の資生堂など、従来の常識からでは到底信じられない企業がその地位を低下させている。諸業無常とは世の常であるが、これまで不沈戦艦と思われてきたこれらの優良企業に、今、何が起こっているのであろうか。

本研究はこの様な現在シェア低下に直面しているマーケット・リーダーを事例として、どのような状況下で、どのような企業特性を持つリーダーが、競争相手にどのような戦略を挑まれてリーダーの競争地位を低下させたのかを分析し、リーダーが厳しくなるメカニズムを明らかにし、そして、そのようなリーダーの採り得るべき競争対応を考察しながら、今後のリーダー戦略への指針を見いだすことを目的とした。

その結果、市場の成熟化とともに進む環境変化それ自体と強大なリーダーが故に起きる様々な制約条件がこれまでのリーダー戦略の定石を通用しづらくしていることが分かった。そして、その競争対応としては、あくまでもその基本は市場にあることを前提に、経営資源を再統合し、競争相手の強みに対抗していくと同時に、最終的には自分の強みに再度競争相手を引き込むような戦略が望ましいという結論を得た。